

今回の修学旅行は日本の歴史文化の再認識や日本文化を守り、こうした現状を実際の現場に立って考察することが目的とされ、以下のようにレポートをまとめました。

「奈良のシカ」の歴史は古く、万葉集(750 年)にも記されていますが、春日大社の社伝に称徳天皇の頃に神様(タケミカヅチのカミ)が茨城県の神島神宮より白い鹿に乗って来られたことから、奈良のシカは神の使いとされています。

しかしながら、明治には作物を荒らされたことから射殺が許可されたり、柵内の収容とエサ不足で 38 頭まで減少し、後に開放されて絶滅を逃れましたが、昭和の戦中戦後には鹿の密猟によって再び約 80 頭まで減少した経緯があります。1957 年には「奈良のシカ」として国の天然記念物に指定され、令和 6 年 7 月の調査では 1325 頭が確認されています。また、奈良のシカは独自の遺伝子を持つ集団であり、絶滅を免れたのは人間が信仰の対象として大切に保護してきたことが大きく、奈良のシカの存在はその歴史的な証明となります。

このように日本の歴史文化はもちろん、野生動物と身近に触れ合うことのできる貴重な存在であり、動態を維持するためには、永続的な保護活動が必要となります。現状の課題として、死因の一番原因とされる（2024年は35頭に減少、多い時は184頭）エサ不足（主食はドングリ）や、ストレスや鹿せんべい以外の食べものが起因する疾病があげられ、次に交通事故となっています。

今回、現地での調査により、自分たちでできる活動を考えてみましたが、奈良の鹿の調査を継続することや、近年エサ不足とされているドングリを採取し奈良の鹿愛護会へ送ることで微力ながら一助になるのではと思い、今後の活動に組み入れていきたいと思いますので、また、皆さんのご協力もよろしくお願いします。

奈良市の施策や奈良の鹿の情報として、資料を添付しますので、参考までにご覧いただければ幸いです。当日の調査の様子も写真や動画に納めましたのでご覧ください。